

2014年度 後期		リフレクションペーパー					
学科名	情報学科						
科目名	上級プログラミングII						
科目区分	専門科目	単位数	1	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	選択						
担当者	勝瀬郁代・佐塚秀人						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・制御構造を利用したプログラムを作成できる。 ・配列を利用したプログラムを作成できる。 ・クラスを利用した基本的なプログラムを読んで理解できる。 ・クラスを利用した基本的なプログラムを自分で作成できる。 ・統合環境を用いたプログラムの作成から実行までの作業内容が実際に出来る。 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義：本講義のガイダンスを行う。前期の範囲の復習を行う。</p> <p>第2回：制御構造について演習する。(6.1, 6.2, 6.3, 6.4, 6.5)</p> <p>第3回：配列の基礎について演習する。(7.1, 7.2, 7.3, 7.4)</p> <p>第4回：配列の応用について演習する。(7.5, 7.6, 7.7)</p> <p>第5回：クラスの構造について演習する。(8.1, 8.2, 8.3, 8.4)</p> <p>第6回：メソッドの引数と戻り値について演習する。(8.5, 8.6)</p> <p>第7回：メンバへのアクセス制限、メソッドのオーバーロードについて演習する。</p> <p>第8回：コンストラクタ、コンストラクタのオーバーロードについて演習する。(9.1, 9.2)</p> <p>第9回：復習</p> <p>第10回：クラス変数、クラスメソッドについて演習する。(9.3, 9.4)</p> <p>第11回：クラスの利用について演習する。(10.1, 10.2, 10.3)</p> <p>第12回：クラス型の変数、オブジェクトの配列について演習する。(10.4, 10.5)</p> <p>第13回：復習</p> <p>第14回：復習</p> <p>第15回：総合演習</p>						
成績評価基準	定期試験			実技			
	臨時試験			部外評価			
	報告書・レポート	100%		プレゼンテーション			
	課題			計			100%
	演習						
授業到達目標の達成度	<p>不合格となったのは、普段、授業にほとんど出席していなかった学生のみであった。ただし、合格者のうち4名は、正規の合格ではなく、補習と追加課題提出による合格である。4名のうち3名は欠席が多く、課題点がたりなかった。1名は、自力で課題を解くことが困難で、提出が難しかったようだ。</p> <p>合格者の評価の平均点は78点となっており、達成度としては9割程度だろうか。</p>						
反省点	<p>選択科目ということと、プログラミングII演習の発展科目ということで、相対的に演習内容が難しいことから、課題を仕上げるできない学生がいた。結果的に、補習により合格にはなったが、できるだけ、途中で補習を入れて、遅れがないように心がけたい。</p>						
来年度の計画	今年と同様に行う						
授業評価アンケートに対するコメント	<p>本科目は、毎年総合評価が低かった。あるクラスの課題が難しすぎるという声が多くきかれていた。そこで、今年から思い切って、クラスを習熟度別とし、下のクラスを常勤講師が、上のクラスを非常勤講師が担当することとし、かつ、課題をクラス間で統一した(難易度を下のクラスに合わせた)。</p> <p>その結果、授業評価アンケートの総合評価が昨年度の6.9から8.3へ大幅に改善された。</p> <p>また、標準的な層の学力は、以前よりも向上したと思う。ごく一部の優秀層にとっては、以前の高難易度問題によって鍛えられたかもしれないが、その役割は、少人数教育(基礎ゼミ等)に譲ることとし、来年度もこの方法で授業を行うことにしたい。</p>						
履修登録者数	69名	定期試験 受験者数	62名	合格者数	61名	合格率	98%